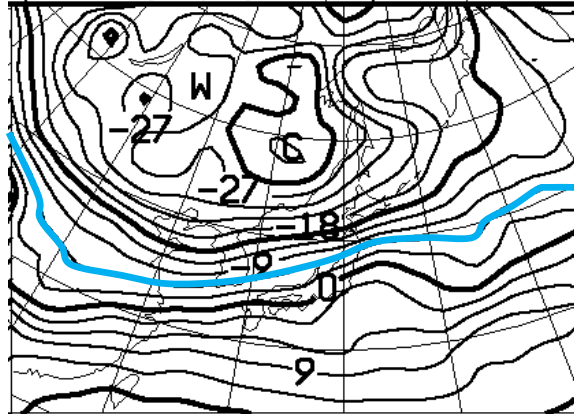
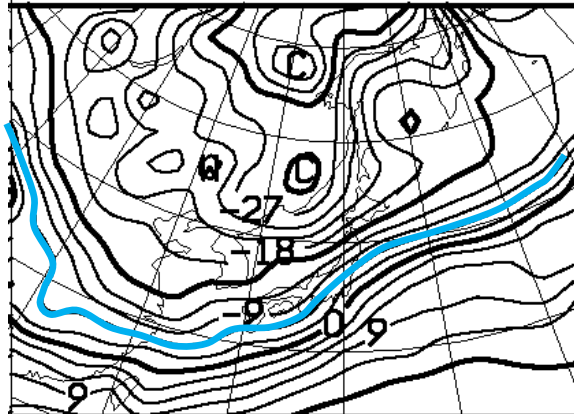


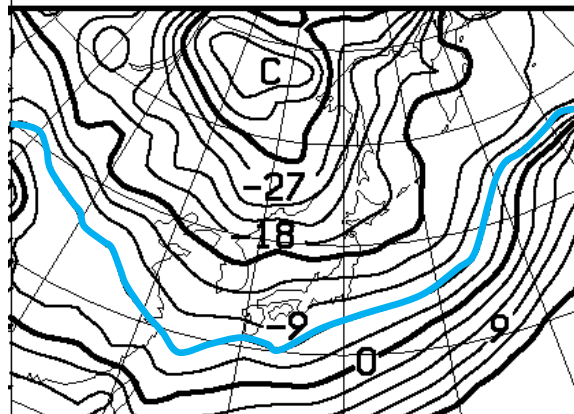
Temp (°C) at 850hPa



T144 12/29



T168 12/30



T192 12/31

12月
29日
21時

上空約1,500m付近(850hPa)における
気温の予想

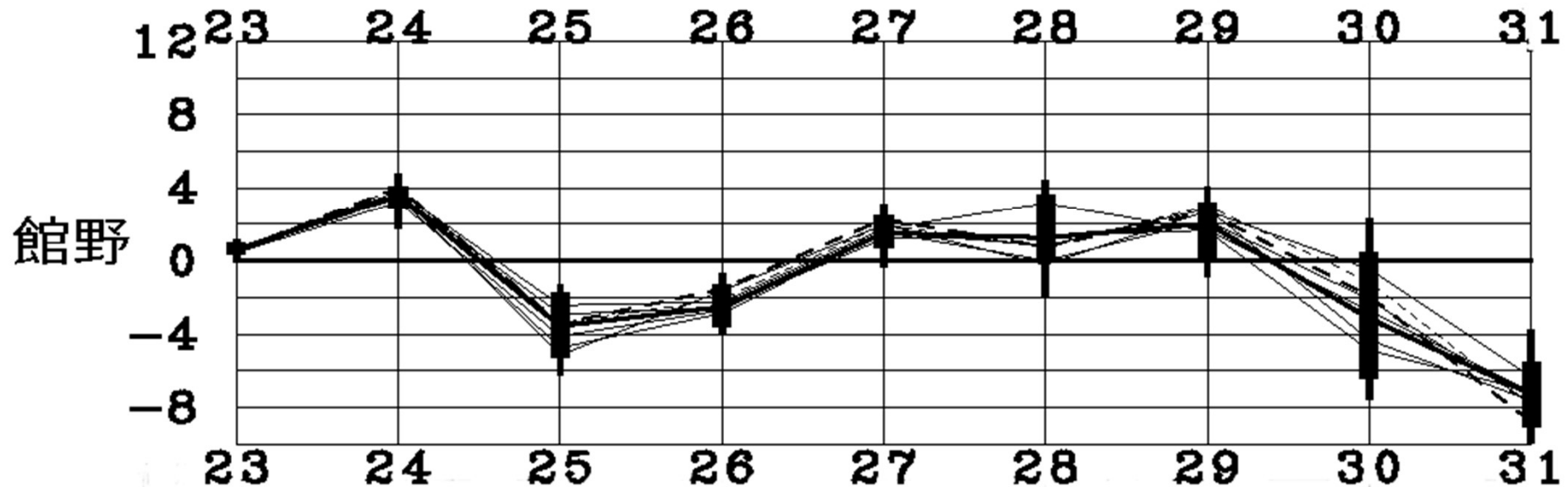
12月
30日
21時

30日から31日にかけて強い寒気が南下し、日本の広い範囲をおおいます。数年に一度の寒波です。北海道から九州の日本海側を中心に大雪の恐れがあります。その後も断続的に寒波が入る見込みです。

12月
31日
21時

青の線は -6°C です。北関東の平地でも雪の可能性がある目安です。また -9°C では大雪なる目安です。南関東でも雪が降る可能性が高くなります。

茨城・館野における高度約1,500mの気温の予想です。
12月30日から31日にかけて気温は急に低くなります。



気象の予想シミュレーション(数値予報)を始めるにあたって、観測値などを用いて初期値を作り、これを基にシミュレーションを開始するのですが、この初期値に僅かに異なった誤差をわざと入れたものを幾通りか作り、この数のシミュレーションをしてゆくのが“アンサンブル予報”です。

予想時間が長くなるとそれぞれのシミュレーションで違いが出てきますが、その違いが小さいと元の初期値に影響されないのので、予想の信頼性が高く、逆に大きく異なるときは信頼性が低いと判断出来ます。

上の図の縦太線は、幾つかのシミュレーションの結果が80%入る範囲を示しています。この縦太線の長さが、短いほど信頼性が高く、長いと信頼性は低いと判断できます。

現在の雪 (解析積雪深・解析降雪量)



00時



動画



色の濃さ 薄い 通常 濃い

